



TITLE:

食料増殖問題と林業政策

AUTHOR(S):

山本, 美越乃

CITATION:

山本, 美越乃. 食料増殖問題と林業政策. 経済論叢 1925, 21(6): 884-897

ISSUE DATE:

1925-12-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128352>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 六 號 第二十二卷

大正十四年十二月一日發行

論 叢

財産税に於ける都鄙の對立……法學博士 神戸 正雄

人間愛の起源……教 授 川村多實二

純正現象學の方法論及び問題論……文學博士 米田庄太郎

時 論

勞働組合としての小作人組合……法學博士 河田 嗣郎

食料増殖問題と林業政策……法學博士 山本美越乃

說 苑

岡山藩と大阪との海運……經濟學士 黒 正 巖

市町村の混合企業に就て……經濟學士 小山田 小七

歐洲に於ける家産運動及び家産制度……經濟學士 八木芳之助

雜 錄

ヒルファディングの恐慌の意義について……經濟學士 谷口 吉彦

妙心寺の財政組織……經濟學士 中川與之助

法 令

農林省統計報告規則・會社統計規則

附 錄

本誌第二十一卷總目錄

（禁 轉 載）

食料増殖問題と林業政策

山 本 美 越 乃

(一)

人口の増加及生活程度の向上に伴ふ主要食料の需要の増加を如何にして補充すべきかとの問題は、從來屢々論議せられたる所であるが、併し其の多くは此の問題を直接且正面より觀察して之が解決の方策を講せんとするものゝ如くであつて、間接且裏面より此の問題の解決に寄與すべき幾多の方法の尙ほ殘存せることを指摘して、世人の注意を喚起したるものは甚だ少いように思はるゝ、殊に一國の林業政策の如何が農産及水産食料品の増殖問題に極めて重大なる關係を有することは、今日に至る迄の食料問題の研究者には案外閑却せられ居るものゝ如くである、故に吾人は食料問題の側面觀として我が國の林業政策と食料増殖問題の關係に就きて卑見の一端を述べて見ようと思ふ。

一國の主要なる原始産業としては、農・牧・漁・林・鑛の五業を挙げねばならぬのであるが、此の中農業及鑛業の盛衰消長に關しては一般に世人の注意を惹くこと甚だ大なるも、他の産業然かも

吾人の生活と一日も離るべからざる關係を有する林業及漁業の消長並に其の齎す影響に關しては、直接之に従事する者以外には未だ多く注意せられて居ないようである、今吾人の考察せんとする林業に就きて之を觀るも、我が國の林野の面積は二千二百餘萬町歩に達し、(内森林即ち立木地の面積は竹林十二萬一千町歩を含み一千八百六十餘萬町歩、原野即ち無立木地の面積は三百四十餘萬町歩)、内地の總面積三千八百八十七萬三千餘町歩の五分の三弱、耕地の全面積六百〇三萬九千餘町歩の三倍半強の廣大なる面積を占めて居る、既に此の龐大なる國土の面積を占むる一大産業たる點より考ふるも、之が開發利用は國民經濟上極めて重大なる問題であると言はねばならぬが、更に林業の盛衰消長の他の産業に及ぼす影響、並に其の間接の効果ではあるが斯業の國民の思想上及健康上に及ぼす影響、換言せば林業に従事する者は事業の性質上都會の惡風に感染するの機會少く、從て着實純樸の美風を保持するのみならず、又保健上より論するも森林は『オン』に富み空氣の淨化作用盛んに行はるゝが故に、國民の健康及體質の維持に偉大の効果を有すること等を考ふる時は、林業政策の一日も忽にすべからざるものあることを知ることが出来る。

(二)

林業の齎す間接の效果に關する問題の攻究は姑く之を措き、斯業と他の産業殊に國民の生活に

- 1) 林野の面積は『第四十三回日本帝國統計年鑑』と『第四十次農商務統計』の示す所とは多少相違あるも姑く後者に據る。

寸時も缺くべからざる食料の生産を主たる目的となす農業及水産業との關係に就きて考ふるに、現今我が國策上重大問題と稱すべきものは敢て二三にして止まらざるべしと雖も、就中我が國民の死活を制する至重至要の問題は食料増殖問題に優るものなきことは、少しく我が國の現狀に注意する者の等しく首肯し得る所である。

斯かる見地より先づ農業の方面に就きて之を觀察するに、現今我が國內地の耕地面積は田三百〇六萬餘町步畑二百九十七萬餘町步合せて約六百〇四萬町步であつて、内、國民の主要食料品たる米の作付段別は、水陸兩稻を合して三百十四萬二千餘町步即ち内地の總面積の僅に八分強、耕地全面積の約五割二分に該當するに過ぎぬ、而して之より生ずる米の産額は、大正九年乃至十三年の最近五箇年間の實量に徴するも一箇年平均五千八百三十餘萬石を出でぬ、然るに一方米の需要狀態に就きて觀るに、こは固より人口の増加・生活程度の向上及一般經濟社會の實況換言せば國民の購買餘力の如何に依りて左右せらるゝも、明治四十年頃迄は一人當の消費量一箇年一石を越ゆること稀なりしに、其の後次第に其の量を増加し大正十二年には一石一斗四升餘となれるを以て、我が國の推計現人口約五千九百萬人の全消費量は六千七百萬石内外に達するも、前述の如く内地の生産額は平均五千八百萬石餘に過ぎざるが故に、現在に於て既に九百萬石内外の不足を生じ、之が補充の方法としては朝鮮より三四百萬石臺灣より百八十九萬石合せて約五六百萬石を移

1) 大正十四年鐵道省運輸局編『米＝關スル經濟調査』四三頁以下參照。

入し、尙ほ不足せる分は所謂外米を以て之を充たして居ると云ふ有様である、故に内地及植民地に於ける産米増加の方針を樹て之が實行に着手することは實に刻下の急務であるが、米の産額を増加せしめんと欲せば先づ以て耕地面積の擴張を計ることが急務中の急務であると言はねばならぬ。而して植民地は之を別とし内地のみに就きて觀察するも、尙ほ耕地面積を擴張し得べき餘地は二百萬町歩(内百六十萬町歩は森林原野に屬し、残りは埋立其の他に依る開墾地)を下らずと稱せられて居る、併し斯かる耕地面積擴張の爲めの新地開墾の事業は巨額の資本を要するを以て、其の實行は決して容易の業でなく、今日迄の經驗に依れば一箇年平均三四萬町歩を開墾し得ば成績良好の部に屬して居る、又一方に於ては此の如く新に土地の開墾に従事するも、他方に於ては商業の發達に伴ふ都會の膨脹・交通運輸機關の完成に因る道路・鐵道等の開通の爲めに、耕地面積の年々蠶食せらるゝものも亦少からざるより、實際耕地の増加する割合は甚だ遲緩であると言はざるを得ない、既に巨額の資本を要するに拘らず、之より生ずる利益は比較的僅少なるが爲めに耕地面積の増加意の如くならずとせば、能ふ限り現状の儘にて、從來利用の途を講せられざりし方面より林野の利用に着手し、即ち一方に於ては森林の經營を爲すと共に、他方に於ては間伐又は最初より學理と經驗に基きて一定の面積上に造殖すべき樹木の數を制理し、此くして得たる林間の空地を利用して、或は其の土地に適せる代用食料品を生産せしむるか、若くは現在生草地と

1) 前掲『米＝關スル經濟調査』一五五頁以下及二三五頁以下參照。

して使用しつゝある原野は之を開墾地に充て、之に代ふるに林間に於ける空地を能ふ限り生草地として利用せんことに注意せば、常に林業の副収入を増加し得るのみならず、食料補充策の上より論するも巨費を投することなくして其の目的の一部を達し得るのである、此の如き見地よりせば、無立木地は勿論立木地と雖も之を利用せんと欲せば別に多くの資本を要せずして利用の途を講じ得べき空地の存せるに拘らず、之を抛擲して顧みざるが如きは林業政策上より論するも將又食料補充策より考ふるも一大罪惡であると言はねばならぬ。加之、林間を此の如く或種の農業の目的に利用する時は、之に依りて林業に従事する者に一年を通じて略は間斷なく其の仕事を得せしめ、又樹木の生長發育を害せざる限り林間に斯かる農業地帯を設けることは、林業に最も恐るべき打撃たる火災の危険を豫防する上に於ても其の效果決して尠しとしない、故に將來の林業は過去に於けるが如くに農業と分離して單獨孤立の存在を保つに非ずして、能ふ限り兩者相提携協力することに依りて各自の利益を増進せしむることを得ると共に、延て食料問題の解決にも助けを與へ得るのである。

(三)

更に又専門家の言に據れば、現今我が國内地の水田の面積約三百萬町歩中六割五分は河川の水

に依りて灌漑せられ、残り三割五分のみが池泉の水に依りて灌漑せられて居るに過ぎぬ、而して全面積の八割強は水の供給に不足を感ぜざるも、残り二割弱は常に水の不足に苦しみつゝ、ありこのことである、¹⁾現在に於て既に然り、將來其の必要に迫られ假令遅緩なりとは謂へ耕地面積の徐々に擴張せらるゝに至る時は、灌漑用水の供給問題は一層重大なる問題として現はれ来るべきは想像するに難くない、而して河川の水量は言ふ迄もなく其の水源となるべき山林の經營狀態如何に負ふ所大なるを以て、斯かる點より論するも林業政策の巧拙が水田の維持經營換言せば我が國民の主要食料品の生産の増減に至大の關係を有することが出来る、一國の農業の興廢が其の國の林業政策の巧拙に依りて左右せらるゝ顯著なる實例は現に朝鮮に於て之を見ることが得るのである、我が領有前に於ける朝鮮の農業の萎靡不振の狀態に在りしは、過去に於ける誤れる林業政策殊に其の濫伐に原因せる河川の氾濫に禍せられたる所のもの頗る大なることは周知の事實である、故に森林・河川・治水・農地の四者は恰も四角形の四邊の如き密接なる關係を有し、其の何れか一に遺策あるも國民の食料問題は之が爲めに大なる不安と脅威を感ぜざるを得ないのである。

(四)

1) 大日本山林會報第四七二號掲載村田重治博士講演參照。

次に農業と相俟つて我が國民の主要なる食料品を供給する水産業と林業の關係に就きて考ふるも、亦其の緊密の度決して農業に譲らざるものあるを知ることが出来る、我が國の沿岸に於ける魚族は近年次第に減少せんとする傾向ありとは從來屢々耳にする所であるが、(大正十二年に於ける内地沿海の魚獲物の總額に貳億五千壹百餘萬圓であつて、之を十年前の大正三年に比較する時は金額に於ては約二倍半の増加を示して居るが、併し之は價格の騰貴に因る總價額の増加が其の主なる原因であつて、漁獲物の數量よりせば減少したるものが相當多數に上つて居る)、¹⁾這は工業の勃興に伴ひ大小無數の工場より惡水又は毒水の河川に放流せらるゝ結果、稚魚の斃死及沿岸魚族の廻游を妨ぐることも固より其の一原因たるべく、又人口の増加及生活程度の向上に伴ふ魚類の需要の増加、從て往々濫獲酷漁の弊に陥ることも亦其の一原因たるべしと雖も、更に隠れたる原因としては……然かも此の原因は世人一般に深く注意せずして看過しつゝある所のものであるが……、誤れる林業政策の結果濫伐に因る沿岸森林の荒廢を見逃すことを得ない、蓋し沿岸に於ける森林は其の樹影を水面に投じて日光の直射を妨げ、水温を調節すると共に魚族に對して安息の場所を與ふるが故に自ら其の來游を誘ふ作用を爲すも、濫伐の爲めに斯かる魚付林の減少を來す時は魚族の集來に適しないからである、加之、森林の存する沿岸には樹木の枝葉老皮等の腐敗解體せるもの、樹木に寄生する微生物・昆虫・小虫類の死體、附近に棲息する鳥獸の排泄物等の

1) 大正十四年帝國水産會編『水産年鑑』四六七頁參照。

水中に落下し流出して有機物となるもの多く、而して是等の有機物は稚魚の生育に必要缺く可からざる餌料たる『プランクトン』を蕃殖せしむる資料となり、又森林は鹹水に淡水を供給する作用を爲すも、『プランクトン』は是等兩水の混合する所に於て増殖力大なるを以て、産卵期に近づける親魚は固より各種の魚族は此の『プランクトン』を求めて森林に近き沿岸に群集するを常とする、然るに不注意なる森林の伐採は斯かる餌料の生育を妨げ、魚族の來游を不可能ならしむるに至ることは往々看過せられて居る所である、明治の初年藩政改革の際、沿岸の樹木を濫伐せし爲め魚族の來游を減じ漁民を苦めしも、其の後禁伐林を設けて之を保護したるより再び魚族の來游を見るに至りたる實例は、全國に亘りて決して尠くない。

此の如くに觀察し來る時は、林業政策の適否が國民の食料増殖問題に如何に重大なる關係を有するかを知ることが出来る、故に林業の合理的經營は食料増殖問題の益々急を告ぐる我が現狀の下に於ては、政府も國民も共に慎重なる考慮を要する一大問題であると言はねばならぬ、然るに林業の經營も亦他の産業の經營に於けると同じく之に對して勞力及資本の圓滿なる協力の行はるゝに非ずんば、到底完全に其の目的を達することを得ないのであるから、是等の兩者を如何に協力せしむべき乎が根本問題であるが、此の問題に關しては吾人は大要左の如き卑見を陳べて參考に供したいと思ふ。

1) 農商務省水産局刊『漁業と森林との關係調査』參照。

（五）

先づ林業勞力の方面に就きて考察するに、是等の勞力の提供者は其の專業的の者たるを兼業的の者たるを問はず、大部分は農村に居住して所謂農民と起臥を共にして居る者である、從て農村に於ける近時の著き思想の變化は、獨り純農民階級に屬する者のみならず、林業に従事する者にも早晚其の影響を及ぼすに至るべきは見易きの理である、元來農村に於ける思想の變化は都會に於ける思想の變化の感化を受けたるものであると言ひ得るが、併し其の結果に至つては前者の方が寧ろ惡性を帶びて居る、這是都會の勞働者の運動と農村の小作人の運動の傾向を比較するも其の然ることを知り得る、即ち都會に於ては同盟罷業を以て之に當らんとする場合でも、農村に於ては往々竹鎗蓆旗の暴力に依らんとするが如き風がある、之は蓋し其の教育・智識及境遇即ち周圍の事情等の差異より、自然に此の如くなるものであらうと思はるゝ、而して林業に従事する者は前述の如く大部分農村の居住者なりとせば、商工業の發達に伴ひ農村を去つて都會に移住せんとする者の次第に増加するに従ひ、林業に従事する者も亦其の刺激を受け、獨り農業者のみならず林業者の數も自ら減少するに至るべきは想像するに難くない、此くして都鄙を通じて一般生活程度の向上及物價の騰貴に原因せる賃金騰貴の傾向以外に、單に林業勞力の需要供給の關係

のみより考ふるも、自ら賃金を騰貴せしむべき理由を生するのである、換言せば今後の林業勢力には從來よりも比較的高賃金を支拂はねばならぬに拘らず、動もすれば都會の労働者及農村の小作人等の惡風に感染して、不穩の行動に出でんとするが如き傾向の多分に有る者を使用せざるを得ざることゝなるであらう、等しく林業に従事するも伐木・製材等の事業は、資金の回収力比較的速度かなるが故に、従業者に對しても高賃金を支拂ひ得る能力を有するも、造林事業の如きは資金の回収容易ならざるより、資金の騰貴は事業經營上に於ける一大打撃であると稱して可い、加之、伐木・製材等の労働には農閑時に於ける農民の勞力を利用し得るの便あるも、造林事業は季節の制限を受くるを以て、此の點より考ふるも高賃金の要求に一層有利なる口實を與へるのである。

以上の如き林業に對する勞力協力の難問題は、或は今日現實に之に直面し居らずとも、早晚斯かる問題に逢着するの時あるべきは農村問題の實例に徴するも明かなるを以て、林業經營者は未だ雨降らざるに先ちて牖戸を修理するの心懸けがなくてはならぬ、而して之が爲めには事情の許す限り林業労働を農事の閑散なる時に爲さしめ、一年を通じて農・林何れかより繼續的に其の仕事を得せしむることに依りて、従業者の収入の増加を計る方針を探ることも一方法であらう、又森林の副産物例へば薪炭用材等の如き従業者の日常の必需品は能ふ限り安價に之を分與し、更に造殖林の如き資金の回収に長日月を要する事業には、成るべく勞力の節約を計らんが爲めに、一

定の面積上に造殖すべき樹木の數を學理と經驗に基きて今少しく精密に算定し、之が爲めに無益の勞費を嵩加せしめざるよう注意することも肝要である、其の他當業者の目より見て勞力を節約し得る限りは之を節し、社會の進歩と共に林業勞働の如き山間僻邑の勞力の、將來次第に減少せんとする場合に備ふると共に、又從業者の生活狀態の變化及物價の騰貴に伴ふ賃金増加の要求の自然の結果として、林業收入の減少延て林業の衰頹を未然に防止するの準備がなくてはならぬ。

(六)

最後に林業に對する資本の協力問題に就きて考ふるに、我が國内地の私有林のみにても専門家の言に據れば、立木の材積約十八億四千五百萬石に達し之を價格に見積る時は少くとも十數億圓の價值ありと稱せらるゝ、然るに斯かる巨額の價值を有せる物が、現今に於ては殆ど全く固定して融通性を缺いて居ると云ふことは、獨り林業の爲めのみならず國民經濟全般の上より考察するも、頗る遺憾の事であると言はねばならぬ、其の價值を有しながら融通性を缺けることは全く寶の持腐れである、此の如き狀態に在るが故に林業政策上必要なる施設も止むなく抛擲せられ、甚だしきに至りては濫伐・怠植等の不始末をさへ見るに至るのである、故に林業金融の途を開くこ

1) 大日本山林會報第四八五號掲載 相原言三郎氏論文『森林勞働問題に關する二三の考察』參照。

2) 大日本山林會報第四八九號掲載佐藤銀五郎博士講演參照。

とは水産金融の途を開くこと、共に我が産業獎勵政策上に於ては最も急を要する重大問題である、水産資金の融通に付きては、其の擔保となるべき物の實價の評定が困難であるとか、或は不充分であると云ふ理由を以て、資金の融通を受けることが仲々容易でないが、林業に於ては其の立木の價格少くとも十數億圓を値するものありと稱せらるゝに、之に對しても等しく金融の便を得ない云ふ理由は、擔保となるべき物の實價よりは寧ろ其の物の保存性に關する疑惧の念が金融の途を梗塞して居るものゝ如くに思はるゝ、例へば頻々として起る山火事の如き、一朝之に襲はるゝ時は昨日の寶庫も今日は一片の燼灰と化し去るを以て、金融業者の恐るゝ所は斯かる點に在る、(大正十二年に於ける林野の被害面積は九萬九千五百餘町步、内、立木地は八萬六千八百餘町步、無立木地は一萬二千七百餘町步であつて、此の被害價額は壹千壹百八拾貳萬餘圓に相當して居る、而して最近十箇年間の被害は一箇年平均七萬八千餘町步、價額參百拾五萬貳千餘圓に當り、更に被害の種類に付きては火災三割三分、風・水・雪害一割八分、病虫害三分、其の他四割六分に當つて居る)、近時森林に對する火災保險の事業を考案せしむるに至つた理由の一も亦茲に在る、併し森林火災保險は現今は尙ほ未だ試驗時代に屬すると言ふも不可なく、従て一般に普及する所迄は至つて居らぬ、故に當面の問題としては林業經營者自ら自己の財産たる森林の保護に全力を盡くし、殊に火災其の他の災厄の豫防に關して遺憾なき方法を講ずる他途がない、而して

1) 第四十次農商務統計表第二編概要3頁參照。

之と同時に又金融機關殊に政府の保護を受ける特殊の金融機關を督勵して、今少しく大膽に資金融通の便を與へしむることに努力せねばならぬ。

最近濱口大藏大臣の全國農工銀行大會に於て爲したる演説として新聞紙上に傳ふる所に據れば、大正元年以來同十二年に至る迄の「日本勸業銀行及各府縣農工銀行」と「普通銀行及貯蓄銀行」などの不動産擔保の貸出額増加の割合を見るに、前者の貸出額増加の割合は凡そ三割八分に過ぎざるに後者は五倍を超え、不動産に對する金融に最も力を注ぐべき銀行の貸出増加の歩合が却て少ない、我が國の不動産中田畑のみにても其の總價額は貳百五拾七億餘圓に達し、此の他山林の價額を加ふる時は頗る巨額の擔保力を有するに拘らず、(山林の價額を前述の如く拾數億圓とせば總價額貳百七拾億圓以上に達する)、大正十二年末に於ける各銀行・保險會社及個人の不動産擔保貸出推定額は合計四拾九億餘圓に過ぎず、内、日本勸業銀行及農工銀行の貸出額は僅に九億參千萬圓内外である、故に今後は一層不動産の資金化に努力せねばならぬと述べて居るようであるが、這是至極同感で既に政府當局に於て斯かる點に就きて金融機關の覺醒を促して居るとせば、少くとも其の保護の下に在る特殊銀行に對しては、不動産擔保の貸出に今少しく大膽ならしむるよう輿論を喚起するの必要がある、而して之と同時に林業金融を困難ならしむる一原因が火災其の他の災害に在ることも否定すべからざる事實なるを以て、此の點に關しては林業に従事する者

自ら大に警戒する所がなくてはならぬ、殊に災害中最も多き火災の如きは、或程度迄は各人の森林保護に關する注意警戒の如何に依りて、之を減少せしむること必ずしも不可能にあらざるが故に、斯かる注意力を一層鋭敏ならしむる點よりするも、本來自助自救の性質を有する庶民金融の一機關たる信用組合の制度を、能ふ限り林業者間にも普及せしむることが又一方法として考慮されるべき事項である。

以上要論せる所に據りて之を見れば、林業政策の確立は獨り森林事業なる一大産業の盛衰消長に關する問題たるのみに止まらず、延て他の産業殊に我が國刻下の大問題たる食料増殖問題に密接なる關係を有すること上述せる所の如くなるを以て、吾人は朝野の人士の間に斯かる政策的の見地より今少しく林政問題に對して忠實なる研究者の出でんことを希望して止まぬ。(完)